

IDDNewsletter.....4

April
2023



特集1

専攻科体験学習

令和5年3月7日火曜日から3月13日月曜日の間、本科1年生を対象とした専攻科体験学習が行われました。ここ数年はオンデマンド方式や授業時間の短縮等、活動内容を縮小して行ってきましたが、今年度は、数年ぶりに1校時から6校時までをフルに利用した体験学習を行うことにいたしました。ものづくりを中心にした活動3時間、デジタルコンテンツ作成を中心とした活動2時間とをそれぞれ体験していただきました。

特集2

eラーニングシステムを活用した授業

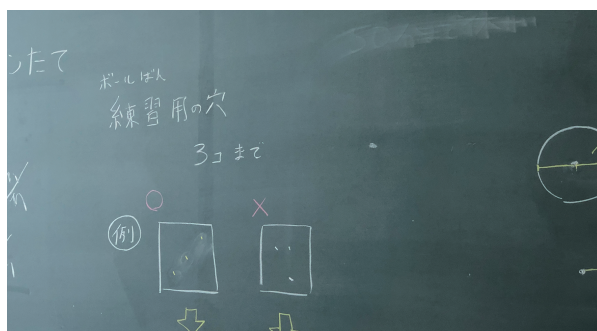
専攻科情報デザイン科ではeラーニングシステムを活用した授業に積極的に取り組んでいます。

特に、専攻科においては、学習内容自体がデジタルコンテンツが主体になっているため、ICTの活用との親和性は極めて高いものと考えています。学生の多様な実態や学習進度の違いへの対応という観点はもちろんのこと、主体的に課題を読み取り、問題解決につなげるプロセスにもつなげやすく、メリットは大きいものと考えています。

特集1

専攻科体験学習

令和5年3月7日火曜日から3月13日月曜日の間、本科1年生を対象とした専攻科体験学習が行われました。ここ数年はオンデマンド方式や授業時間の短縮等、活動内容を縮小して行ってきましたが、今年度は、数年ぶりに1校時から6校時までをフルに利用した体験学習を行うことにいたしました。ものづくりを中心にした活動3時間、デジタルコンテンツ作成を中心とした活動2時間とをそれぞれ体験していただきました。



令和5年3月7日火曜日から3月13日月曜日の間、本科1年生を対象とした専攻科体験学習が行われました。

体験学習自体は、年度末の恒例の活動として継続して行ってきました。しかし、コロナ禍による感染予防の観点等から、ここ数年はオンデマンド方式や授業時間の短縮等、活動内容を縮小したり、制限したりするなどしたため、本科在籍生徒の皆さんには十分な体験的な活動が提供できなかったかもしれません。

今年度は、数年ぶりに1校時から6校時までをフルに利用した体験学習を行うことにいたしました。

内容としては、1校時のオリエンテーションの後、ものづくりを中心にした活動3時間とデジタルコンテンツ作成を中心とした活動2時間とをそれぞれ体験していただきました。

ものづくりを中心にした活動においては、木材加工によるインテリアエレメントの制作を内容として準備しました。制作プロセス自体は、適当な大きさに木材を整形し、穴を空け、ヤスリがけを行ってからニス塗装する、という流れで、それほど巧緻性は要求されるものではありません。

んが、3時間という時間の制約の中で、それなりの雰囲気味わっていただけたのではないかと思います。

また、デジタルコンテンツ作成を中心とした活動においては、HTML5とCSS3を使ったWebコンテンツ作成を体験していただきました。Microsoft Visual Studio Codeというテキストエディタを利用し、Webページ制作のためのコードをベタ打ちしていきます。予め準備されたテンプレートをベースに、十数種類の料理のレシピから好きなものを選んで、テンプレートのタグと一致する要素のテキストを流し込んでいくのですが、「意味の階層性」や「メタ情報」といったものについての気づきが必要な部分で、なかなか手強い内容だったはずです。

HTMLはデータ記述言語の一種であり、プログラム言語とは異なりますが、完成した状態の見た目とは全く異なるソースコードを入力していくプロセスは、デザイン活動の本質である「情報を整理する」こと自体について、その難しさやおもしろさの一端を経験していただけたのではないかと思います。

IDDN

eラーニングシステムを活用した授業

専攻科情報デザイン科ではeラーニングシステムを活用した授業に積極的に取り組んでいます。

特に、専攻科においては、学習内容自体がデジタルコンテンツが主体になっているため、ICTの活用との親和性は極めて高いものと考えています。学生の多様な実態や学習進度の違いへの対応という観点はもちろんのこと、主体的に課題を読み取り、問題解決につなげるプロセスにもつなげやすく、メリットは大きいものと考えています。

以前にもお伝えした内容ではありますが、専攻科情報デザイン科ではeラーニングシステムを活用した授業に積極的に取り組んでいます。

新学習指導要領に基づいた資質・能力の育成に向けて、ICTを最大限活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められています。

特に、専攻科においては、学習内容自体がデジタルコンテンツが主体になっているため、ICTの活用との親和性は極めて高いものと考えています。学生の多様な実態や学習進度の違いへの対応という観点はもちろんのこと、主体的に課題を読み取り、問題解決につなげるプロセスにもつなげやすく、メリットは大きいものと考えます。

今回御紹介するのは、著作権に係る学習とプログラミングの学習です。

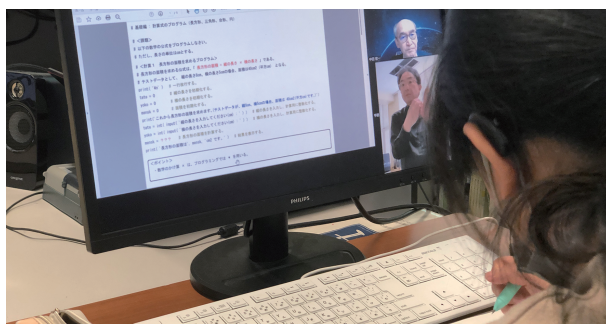
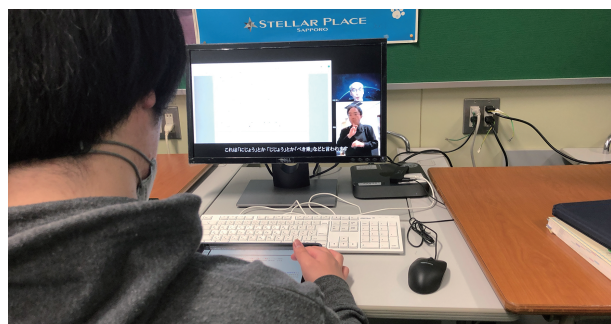
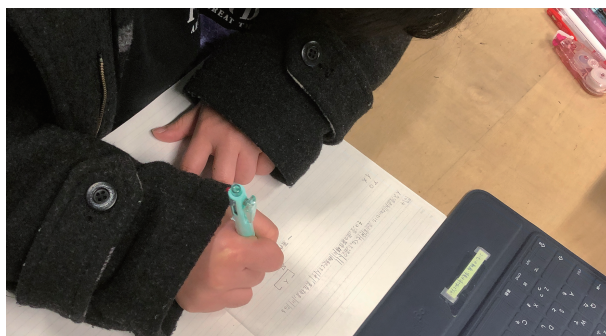
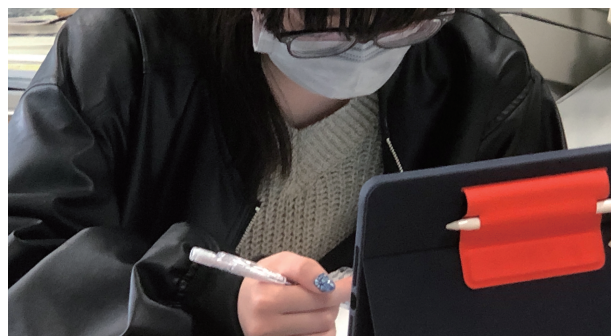
著作権の学習については、文化庁から著作権に係るテキストが配布されていますが、この内容を利用し、四択や○×形式の問題を作成して、学生に取り組んでいただいています。

この活動においては、「意味内容の妥当性」と「条件式における真偽」の違いへの気付きが重要であり、言語活動としてもそれなりの噛みごたえのある活動となっています。

情報デザイン科は、デジタルコンテンツの作成やフロントエンドエンジニアの育成を看板にはしていますが、その看板を維持するには、知的財産の保護を尊重する態度を培うことが重要と考えており、今後、学科内の中核の学習内容へと発展させていければと考えています。

プログラミングの学習については、12月末くらいからPythonの学習に取り組んでいます。この学習は、説明動画の視聴、eラーニングシステムによるワークシート課題、プログラミングという流れで構成されています。説明動画には、AdobePremiereの文字起こし機能を利用して挿入した字幕と、手話通訳を担当する教員の通訳画像が組み込まれており、学生はそれらの情報補償により学習内容を深めていきます。当初は、これまでの対面型の学習との仕組みの違いに戸惑う様子も見られましたが、学び方のテンプレートのようなものをふれずにしっかり準備し、繰り返していくことで、学びのシステムが明示化され、学生も次第に対応できるようになってきました。約3ヶ月の学習期間に、全8回の授業を行いました。今では学生がソースコードの一部を準備された資料を手がかりにしつつ、ソースコードを組めるようになってきており、学習の成果が伺えます。

IDDN



Contents

特集1

2-3 専攻科体験学習

令和5年3月7日火曜日から3月13日月曜日の間、本科1年生を対象とした専攻科体験学習が行われました。ここ数年はオンデマンド方式や授業時間の短縮等、活動内容を縮小して行ってきましたが、今年度は、数年ぶりに1校時から6校時までをフルに利用した体験学習を行うことにいたしました。ものづくりを中心にした活動3時間、デジタルコンテンツ作成を中心とした活動2時間とをそれぞれ体験していただきました。

特集2

3 eラーニングシステムを活用した授業

専攻科情報デザイン科ではeラーニングシステムを活用した授業に積極的に取り組んでいます。
特に、専攻科においては、学習内容自体がデジタルコンテンツが主体になっているため、ICTの活用との親和性は極めて高いものと考えています。学生の多様な実態や学習進度の違いへの対応という観点はもちろんのこと、主体的に課題を読み取り、問題解決につなげるプロセスにもつなげやすく、メリットは大きいものと考えています。

Welcome to Information Design Department!!

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科学科だよりをお読みいただきまして、ありがとうございます。

今年度も大詰めです。

みなさま、1年間大変お世話になりました。

これからしばしの春休みとなりますが、私たちは、新年度に向けて、教育活動の総括と枠組みづくりを進めていかなくはなりません。

今後とも、よりよい教育コンテンツと指導方法を提供するため、鋭意努力してまいります。

来年度もどうぞよろしくお願い致します。

情報デザイン科学科だより

Information Design Department

IDDNewsletter

April 2023 4

IDDNewsletter

April 2023

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。



専攻科情報デザイン科の特徴

- ・高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。(いわゆる「標準教育」の教育課程です)
- ・授業料が全くかからず、材料費等も非常に低コスト^(注3)で、対費用効果の高い学びができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象^(注4)となっており、支援制度等も充実しています。
- ・DTPやWebに係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。(例えば、Webであれば、HTML5とCSS3を使い、セマンティックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトやcenterタグは使いません！)
- ・デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」^(注5)で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- ・学生のこれまでの学びの環境や積み重ね(「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等)に合わせた教育方法を準備します。
- ・筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- ・修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスを受けたり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い^(注6)などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「(社会にとって、自分にとって)やる価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に進路選択できるようにしていきます。

ファックス：0134-62-2663

電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

電話：0134-62-2624

※入試前で教育相談等に対応できます。

一人一人に合った指導方法を準備するために、できるだけ入試前に教育相談にお越しになることをおすすめいたします。